

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	名古屋市立西山小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	生き生きと学び、学び合う児童の育成

1、活動に至る経緯

本校は、児童数1200名。名古屋市一の大規模校である。教育への意識の高い文教地区で、学ぶ意欲の高い児童が多い。しかし、過大な規模のため、施設の手狭さ、器具等の不足など、ハード面が児童の意欲に追いついていない課題を抱えている。また、関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」を進めることができておらず、特に、「学習の個性化」については、「もっと自分に合う問題を解きたい」「難しいことを調べたい」など、児童の一人一人の高い意欲に適応した学びを進めてほしいという声が、児童からも上がっており、喫緊の課題であると考えており、主体的に学び、学び合う児童の育成を図りたいと考えた。

2、活動・研究の目的（ねらい）

『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』を進め、主体的に学び、学び合う児童の育成を進める。各地の先進的な取り組みや、研究者との交流を通して学び、知見を深めていきたい。そして、得た知見を基に積極的に授業づくりにチャレンジし、個別最適な学びの可能性や効果を実感し、その成果を全教職員で共有する。また、大規模校で実践を進める上での課題についても浮き彫りにし、次年度以降のカリキュラム策定につなげていく。

これらのことを実践で進めていくためには、これまでの指導法にはない、授業観、教師観を大きく変える必要がある。本校の実態に合うように、どのような取り組みがあり、どのような取り組みが必要で適切なのかを検討しながら、大きな変革を学校全体で受け止め、進めていくことが重要である。

本研究は、未来を生きる児童にとって、必要不可欠な力を育成する上で大変重要な価値のあるものである。今年度は、これまではない、新たな領域へのチャレンジであり、そのスタートラインに立つ位置付けである。これまでに本校で培ってきた高い協働性を発揮して、全教職員の力を合わせて研究を推進する。

3、活動内容

(1) 授業観・教師観を大きく変えるためのアプローチ ～学び、学び合う教師の姿がモデルとなる～

教師が自身の授業観・教師観の大転換を図るためには、先進的な取り組みを学ぶことが不可欠である。大規模な本校では情報共有は意外に大変である。今回、助成で購入した図書のリストや、市内外の授業公開や研修会などの情報、市の教育に関する情報を共有するために「校内ポータルサイト」を活用している。

また、校内での研修会を実施し、その研修を自分たちの授業づくりに生かした。1学年が6～7学級のため、「1つの授業をみんなで創る」形で取り組んだ。



【職員で情報共有できる校内ポータルサイト】

個々の教師が文献や研修会で得た学びを、学年に還元し、授業づくりにチャレンジできることで学年チームが活性化していった。教師一人一人が学び、学年で協働性を生かして授業づくりに取り組むことで、自分たちの姿が、児童の学びの姿につながるモデルとなる取り組みであった。

(2) 新たな授業スタイルへの挑戦

4年生理科の「電気のはたらき」では「マイプラン学習」として、児童が学習計画を立て、自分のペースで学習に取り組む実践に取り組んだ。あらかじめ「マイプラン学習説明書」で、内容、ねらい、方法、約束を説明し、児童に主体的な学びを意識させた。そして、はじめに個々で学習計画を立て、学習カードに学習内容を示し、自分のペースで学習を進めた。学習課題に必要な教科書やワークブック実験キットやその説明書など、学習に必要なものを準備することで、一人でも取り組むことができた。一人で黙々と取り組んだり、相談しながら取り組んだり、様々であったが、どの児童も意欲的に学習に取り組む姿がみられた。事後のアンケートでも、「自分のペースでしっかり学ぶことができた」「分からないとき、友だちと一緒にできた」「自分でやると詳しくできた」と、マイプラン学習の成果を実感することができた。



【個別・協働も自己選択で】

マイプラン学習説明書

◇ マイプラン学習とは
自分で計画を立てて、自分で勉強する時間のことです。一人ひとり、自分のペースで勉強を進めます。

◇ どうしてマイプラン学習をするの？
1人でも学ぶことができるようになってほしいからです。わかる、できるだけなく、計画を立てたり、思いをもったり、自分の学習をふり返って、次に生かすことができてほしいと思っています。

◇ こんな時はどうするの？
Q. 分からないときは…
→ 分からないときや困ったときには、友達に聞いたり、友達同士で教え合ったりしてもいいです。もちろん先生に聞いてもいいです。
でも、まずは自分で考えて、調べて取り組んでみましょう。
Q. 計画より遅く進んでしまったら…
→ どんどん進んでください。はやく終わった人には、「発展学習」も準備してあります。この学習に関係あることなら、自分で工夫してもOK。

マイプラン学習での約束

- ・ 「分かったら」をしない
- ・ 他人のじゃまをしない
- ・ するをしない
- ・ 人を馬鹿にしない
- ・ 自慢しない（「すごいこと」が良いわけではありません。）
- ・ 学習材（道具や資料）などは大切に使い、元の場所に戻していただきます。

【マイプラン学習の指針を示す】

(3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるロボットプログラミング

ロボットプログラミングは個別最適な学びにも協働的な学びにも高い親和性がある有効な教材である。大規模な本校では、なかなか十分に機材をそろえることができなかったが、本助成のおかげで、ようやく第一歩を踏み出すことができた。今回選定したCodey（コーディ）は、mblockというスクラッチベースの言語アプリをタブレットにインストールした。走行（動き）、発色、音、文字や絵の表示、音声センサー、ジャイロセンサー、色センサーなど様々な動きをするロボットであり、制御も簡単で大きさも見た目も愛らしく、児童はすぐにとりこになっていた。総合的な学習の時間を活用し、2時間程度の簡単なカリキュラムを作成し、実践に取り組んだ。ここでは、ロボットプログラミングの基本を学び、走行や音、発色や絵の表示など簡単な命令でロボットを制御した。

台数が限られているため、2～3人に1台のロボットという環境であったが、音や表情を出したり、迷路を脱出したりするなど、友だちと相談しながら何度もプログラムを修正し、実行を繰り返して、ゴールを目指していた。児童は画面の中だけでなく、ロボットを実際にコントロールすることに、とても大きな喜びを感じていた。また、新たな工夫や課題を自分たちで見付け、積極的にチャレンジしていた。

4. 子どもたちへの効果（成果・課題）

- 児童の学びを変えるためには、まず、教職員の意識変革が重要であることをスタートラインにし、「新たなチャレンジ」をキーワードに取り組んだことは、教職員の意欲を高め、新しい授業観・教師観を意識させることに大変有効であった。
- 個別最適な学びを授業づくりに生かした実践により、児童一人一人が、より主体的に学ぶようになった。特に、「マイプラン学習」のように、学習に自己選択、自己決定を多く位置づけることが、子どもの主体的な学びに大きく影響することが明らかとなった。
- ロボットプログラミングは、児童の学びに向かう意欲や探究心を育成することに大変有意義であることが明らかとなった。
- 個別の学び・協働的な学びを自由に選択して学習を進めることは、児童一人一人の学習進度や成果・課題を把握することがとても難しく、評価方法について工夫が必要だと感じた。
- 教科学習の中で、ロボットプログラミングを位置づけることが難しく感じた。ロボットの特性を生かしてどの教科・単元で活用することができるのかをさらに追究が必要であると感じた。
- ロボットの台数がまだまだ充実しているとは言えない。一人1台端末環境となった今、様々な学びのツールを整備し、さらに児童が個別最適な学びにもロボットプログラミングを生かし、主体的な学びを進めることができる環境整備が必要であると感じた。